



日本ワイナリーアワード® 2024 ご案内

一般社団法人 日本ワイナリーアワード協議会



日本ワイナリーアワード®は
優れた日本ワインを生み出す
醸造家・ワイナリーを顕彰しています



ごあいさつ

明治初期にスタートした日本におけるワイン造りは、21世紀になり新たなフェーズに入りました。個性豊かなワインの造り手が次々と登場し、今や全国で400社を超えるワイナリーが活動しています。日本ワインが世界的なコンクールでトップクラスの評価を得ることも珍しくなくなりました。まさに日本ワインは新時代に突入したのです。

日本ワイナリーアワードは数多くの日本ワインの中から、傑出した品質を誇るワイナリーを顕彰することを目的に設立しました。従来のコンクールのように個別の銘柄に対する評価ではなく、ワイナリーそのものを評価しています。スイートルームはもちろん、スタンダードクラスの客室でも十分に満足できる、ホテルの格付けを連想されるとわかりやすいでしょう。アワードで選出されたワイナリーが生み出すワインは、クオリティーが高く満足できるものばかりです。日本を代表する珠玉のワインをぜひお楽しみ下さい。このアワードが、ワインを愛する消費者の方々が日本ワインを選ぶときの一助になることを願ってやみません。

お気に入りのワインを見つけたら、ぜひそのワイナリーを訪問してみましょう。全国各地にあるワイナリーを訪れ、ブドウ畑に吹く風を感じ、ワインと同じ土から生まれた地元の食材による料理とのマリージュを楽しみましょう。ワインとは、その産地の気候風土(テロワール)のすべてを楽しむものなのです。



一般社団法人日本ワイナリーアワード 協議会

代表理事／アワード審議委員長

遠藤利三郎

第7回 日本ワイナリーアワード® 2024 開催概要 (2024.4.30.現在)

会 名 称： 第7回 日本ワイナリーアワード® 2024

開 催 日： 2024年6月10日（月）
【第一部】授賞式・発表会 17:00-17:40
【第二部】記念パーティ 18:00-20:00
※第二部は有料・立食形式予定

会 場： 東京會館 7Fアゼリア、ロイヤル
(東京都千代田区丸の内3-2-1)

参 加 者： 関係者（メディア、関係省庁、ワイナリー関係者など）： 約50名
一般（有料）： 約100名

審 査 員： 計21名（審議委員長、全国区審査員6名、地方区審査員14名）

特別審査員： 鳴門親方（現役名：琴欧州関）

ゲスト： 駐日大使館（現在調整中）、外務省その他省庁など
廣瀬俊明氏（株式会社HIRAKU CEO・元ラグビー日本代表キャプテン）（調整中）、他

後 援： 農林水産省（予定）、JF00D0（予定）、他調整中

協 賛： リーデル・ジャパン、株式会社グローバル

協 力： 日本航空株式会社、DMO東京丸ノ内

内 容：
・来賓、特別ゲストの挨拶
・アワード受賞ワイナリーの発表、表彰
・第二部にて、5つ星ワイナリーのワインの有料試飲パーティー、ほか



日本ワイナリーアワード® が目指すもの

Our Mission —私たちの使命—

日本ワインの生産者が世界品質を生み出すための“道しるべ”になること

日本各地にワインの醸造家が増え、日々技術と品質の向上に励んでいます。

日本ワイナリーアワードは、日本ワインの醸造家の中でも傑出した品質のワインを産出するワイナリーを顕彰することで、多くの人たちに日本ワインの価値を啓発すると共に、醸造家が目指すべき品質の指標となり、日本ワイン全体のレベルが向上して、世界に認められるワインとなることに寄与します。

Our Vision —私たちのビジョン—

日本ワインが世界に認められるレベルになること

日本ワインの醸造技術が向上し評価も上がる一方で、関税の撤廃で輸入ワインとの市場競争も厳しさを増しています。

私たちは、日本ワイナリーアワードの取り組みにより、日本ワインが世界から認められる品質となり、他国の多くのワインに埋もれることなく多くの人から選ばれる存在となることを目指します。

日本ワイナリーアワード® の仕組み

審査対象： 審査対象は原則として、設立より5年以上経過した国内ワイナリーとする。
委託醸造ワイナリーについては、5年以上の生産歴があり最新のヴィンテージで年間1,000本(750ml換算)以上生産しているワイナリーを審査対象とする。

審査員： 世界各地のワインに精通し、10年以上に渡り下記のいずれかに従事するワインの専門家
(ただし、醸造家は除く)

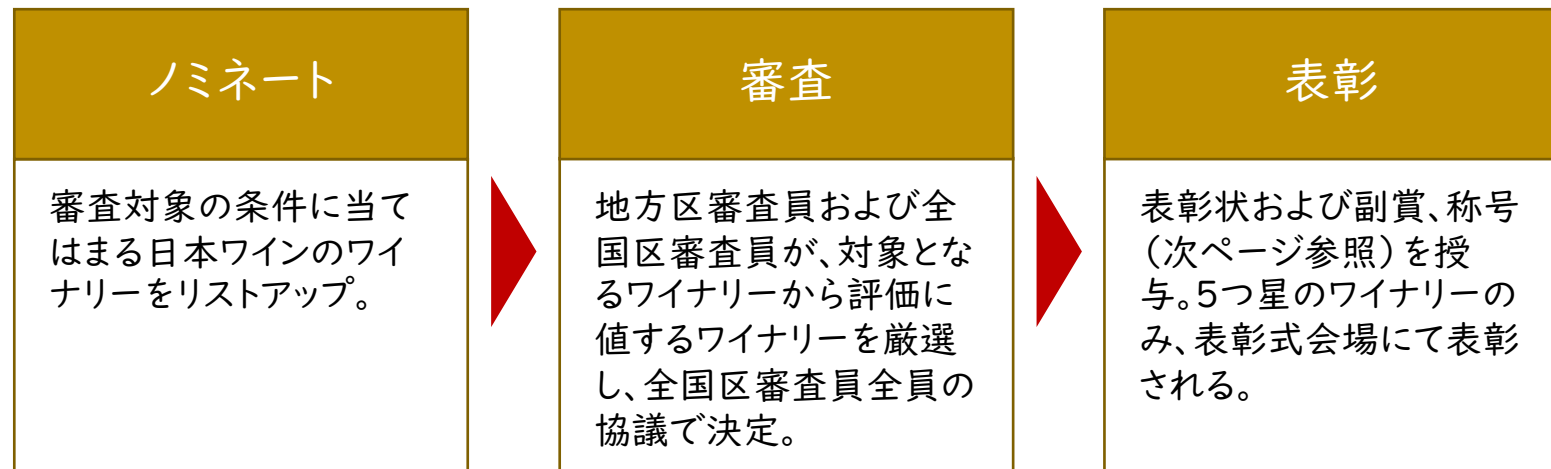
1. 日本ワインを広く取り扱う酒販店の代表者または仕入れ担当者
2. 日本ワインを広く取り扱う飲食店の代表者または仕入れ担当者
3. 日本ワインに関する著作・記事のある者

※消費者の目線に立った評価をするためにワイナリー関係者は含めない。

※審査員は2年ごとに見直す。

※各地区4名以上、主要地区は6名以上で審査。

審査方法：



日本ワイナリーアワード® の審査基準と称号

日本ワイナリーアワードはワイン単体ではなく、良いワインを生み出すテロワールとつくり手に与えられる賞です。消費者に一番近い立場にいるプロフェッショナルが、世界中のワインを知った上で「この日本ワインなら胸を張ってお客様におすすめできる」と評価したワイナリーに贈られます。

Japan Winery Award



5つ星は最高評価のワイナリー。

多くの銘柄・ヴィンテージにおいて、傑出した品質のワインを生み出すワイナリーが受賞します。

Japan Winery Award



4つ星は非常に高い評価のワイナリー。

全体的に良質で安定感があり、銘柄やヴィンテージによっては傑出した品質のワインを生み出すワイナリーが受賞します。

Japan Winery Award



3つ星は高い評価のワイナリー。

安定感があり、ほとんどのワインが良質で安心して購入できるワインを生み出すワイナリーが受賞します。

Japan Winery Award

コニサーズワイナリー

コニサーとは、鑑定家や目利きの意味。評価に値する個性あるワインを生み出すワイナリーが受賞します。

日本ワイナリーアワード® 設立メンバーのご紹介

『一般社団法人 日本ワイナリーアワード 協議会』を設立しました

日本ワイナリーアワード 審議会は2020年2月25日、一般社団法人 日本ワイナリーアワード 協議会として新たなスタートを切りました。協議会一同、日本各地の地域振興に貢献できますよう、取組んでまいります。

■ 日本ワイナリーアワード 審議委員長

(一社) 日本ワイナリーアワード 協議会 代表理事

遠藤利三郎 / *Risaburo Endo*

[本名: 遠藤誠 / *Makoto Endo*]

1962年東京生まれ。学習院大学経済学部卒。アカデミー・デュ・ヴァン講師、早稲田オープンカレッジ講師、外務省在外公館赴任前研修日本ワイン講座担当、日本輸入ワイン協会事務局長、日本ワインコンクール審査員、フードクス・ジャパン企画委員、塩尻市ワイン大学学長。ボルドー、ブルゴーニュ、シャンパーニュの3大ワイン騎士団を始め多くの騎士団から騎士の称号を受ける。著書に「ワイン事典(学研)」、共著に「日本ワイナリーガイド(新樹社)」など多数。現在ソムリエ協会会報にエッセーを連載中。ワイナリー遠藤利三郎商店オーナー。

■ 日本ワイナリーアワード 顧問

(一社) 日本ワイナリーアワード 協議会 理事

石井もと子 / *Motoko Ishii*

輸入ワインのマーケティングに関わり、各国のワイン生産者団体—NZ WINE Growers(ニュージーランドワイン栽培生産者協会)、WOSA(南アフリカワイン協会)、OWB(オレゴンワイン生産者協会)—の日本代表を務めた。傍らワインジャーナリストとして活躍。2006年よりガイドブック「日本のワイナリーに行こう」(監修・執筆)を発行、日本ワインの振興に努める。講談社「日本版ワインツーリズムのすすめ」など著作、寄稿多数。日本ワイナリー協会顧問。

■ 日本ワイナリーアワード 事務局長

(一社) 日本ワイナリーアワード 協議会 専務理事

山本光子 / *Teruko Yamamoto*

リクルート、西武百貨店本部営業企画室、札幌西武を経て、2001年(株)NTTドコモ北海道。販売促進担当部長、マーケティング部長。2004年(株)電通北海道。第1回日中韓観光大臣会合、洞爺湖サミット記念北海道環境総合展、エゾシカ利用促進事業、アイヌ文化啓発「イランカラプテキャンペーン」、食と環境・国際フォーラム、ミシュランガイド北海道2012などプロデュース多数。2014年(株)ぐるなび。上席執行役員プロモーション部門長。京都、日本橋はじめ日本各地の食・観光関係とのリレーションが深い。2020年4月～立命館大学食マネジメント学部客員教授、IT企業のCPROほか兼業複数。北海道シンガポール友好協会会員。日本広報学会会員。日本サウナ学会会員。ボルドー騎士団コマンドゥール。北大法学部卒。東京、札幌2拠点生活9年目。

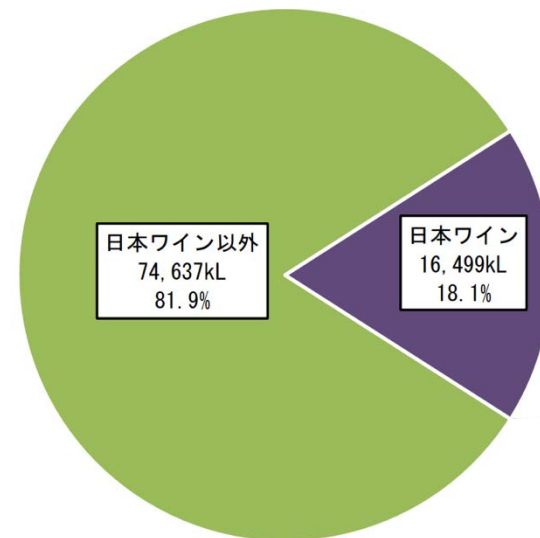
日本ワインについて

国内のワイナリーの数は年々着実に増加。
また海外での日本ワインの評価も向上、輸出量も年々増えています。

●日本ワインとは

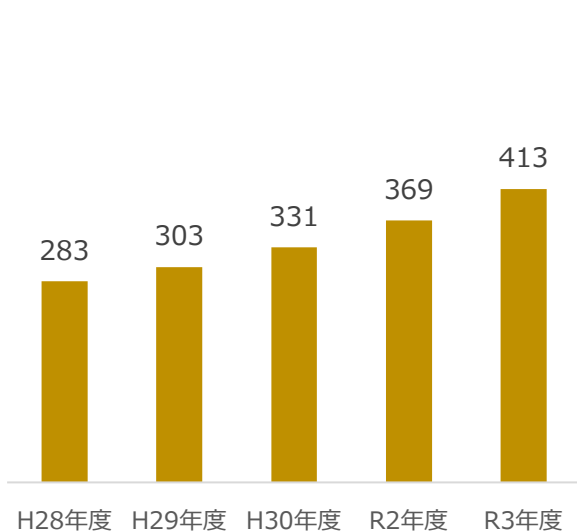
日本国内で栽培されたブドウを100%使用して日本国内で醸造されたワインのこと。
背景として、国内における酒類消費が横ばいの中、ワインは近年消費が拡大している成長産業であること、特に国産ぶどう100%を原料とする「日本ワイン」の中には海外で高い評価を受ける高品質なものが出てきていることから、日本ワインとその他のワインを明確に区別し、日本ワインには産地・品種・年号等の表示ができるよう、国税庁が2018年10月30日に制定。

国内製造ワインの製成数量構成比

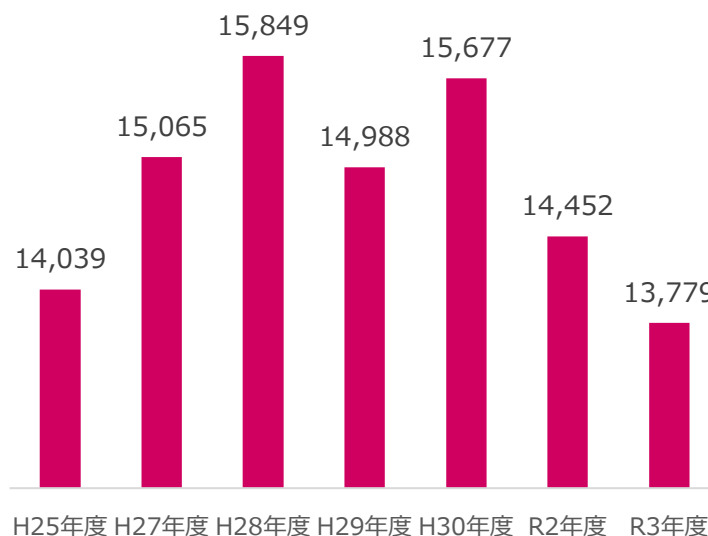


出所： 国税庁「酒類製造業及び酒類卸売業の概況（令和3年調査分）」

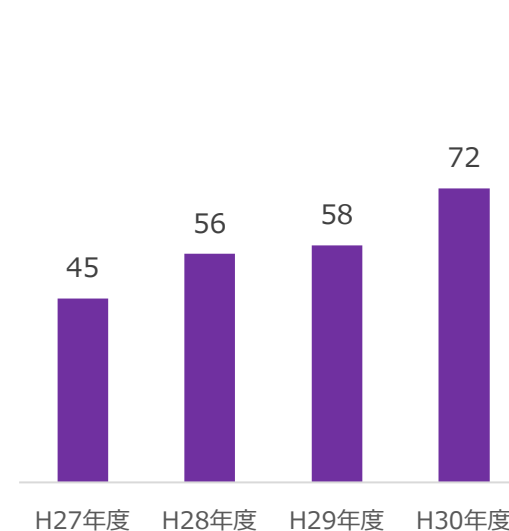
国内ワイナリー数（場）



日本ワイン出荷量 (kl)



日本ワイン輸出量 (kl)



出所： 国税庁「酒類製造業及び酒類卸売業の概況（平成27年～令和3年調査分）」
※果実酒製造業者実態調査によるものであり、必ずしも回答者が同一ではないため、経年比較にあたっては参考値であることに留意する

日本ワイナリーアワード® のあゆみ

▼第1回 日本ワイナリーアワード



▼第2回 日本ワイナリーアワード



▼第3回 日本ワイナリーアワード



▼第4回 日本ワイナリーアワード



▼第5回 日本ワイナリーアワード



第6回 日本ワイナリーアワード® 2023 2023年6月2日開催（会場：東京會館）

会場とオンライン（zoom）のハイブリッド形式で
発表・授賞式、試飲会を実施しました。



第6回 日本ワイナリーアワード® 2023 開催レポート



- 会 名 称： 第6回 日本ワイナリーアワード® 2023
開 催 日： 2023年6月2日（金）
 ■授賞式 11:15~11:45 / ■試飲会 11:45~13:15
会 場： 東京會館 7Fクインス（東京都千代田区丸の内3-2-1）
参 加 者： 関係者（メディア、関係省庁、ワイナリー等）： 約40名
 一般有料来場者： 約40名
審 査 員： 計21名（審議委員長、全国区審査員6名、地方区審査員14名）
特 別 審 査 員： 株式会社HIRAKU 代表取締役CEO 廣瀬俊朗氏
 （元ラグビー日本代表キャプテン）
後 援： 農林水産省、観光庁、JF00D0
協 賛： リーデル・ジャパン、株式会社グローバル
受賞ワイナリー： [5つ星] 16場、 [4つ星] 64場、
 [3つ星] 104場、 [ユニサイズ] 58場



第6回 日本ワイナリーアワード® 2023 受賞ワイナリー

2023年6月2日、2023年度の受賞ワイナリーを発表しました。

★★★★★
[5つ星]

16 場

★★★★
[4つ星]

64 場

★★★
[3つ星]

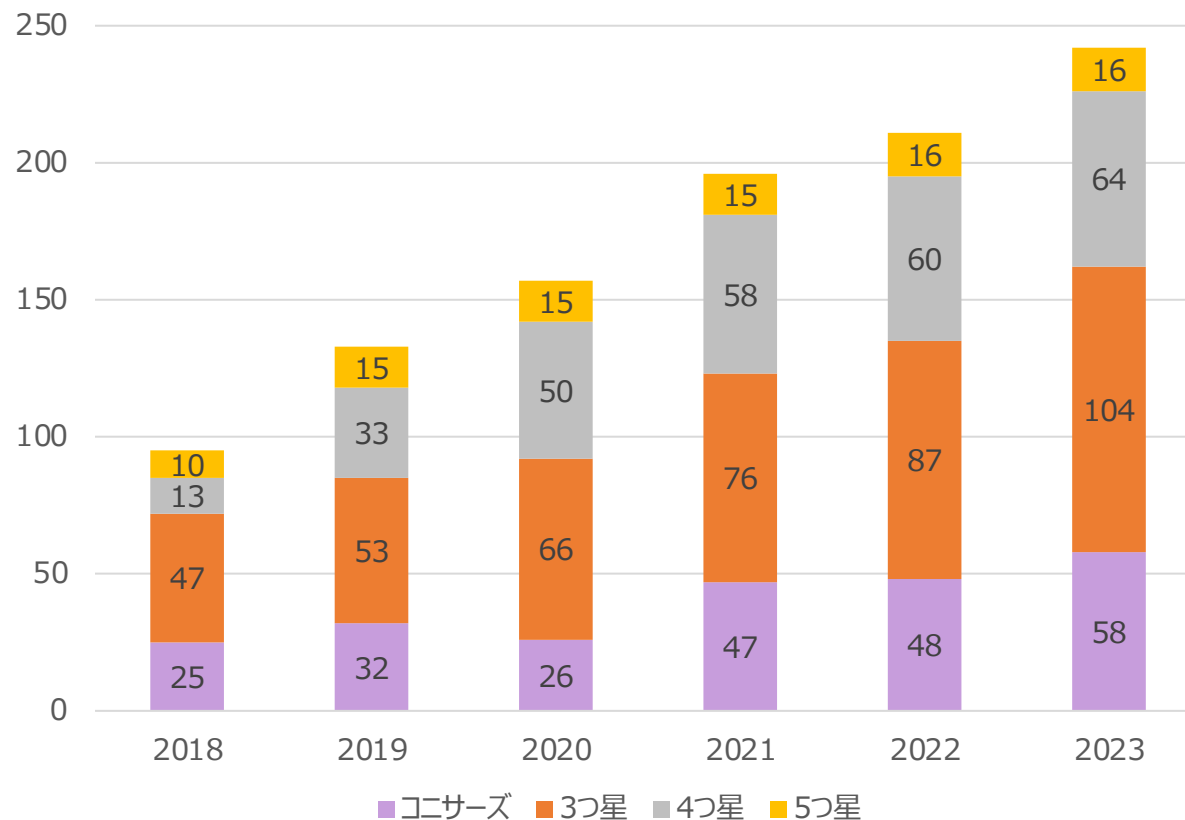
104 場

コニサーズ

58 場

★★★★★ [5つ星] ワイナリー

- | | |
|-----|----------------|
| 北海道 | ドメーヌ・タカヒコ |
| 北海道 | 山崎ワイナリー |
| 山形県 | 酒井ワイナリー |
| 山形県 | 高島ワイナリー |
| 山形県 | タケダワイナリー |
| 山梨県 | 勝沼醸造 |
| 山梨県 | 機山洋酒工業 |
| 山梨県 | Kisvinワイナリー |
| 山梨県 | サントリー登美の丘ワイナリー |
| 山梨県 | シャトー・メルシャン |
| 山梨県 | ダイヤモンド酒造 |
| 山梨県 | 中央葡萄酒 |
| 山梨県 | 丸藤葡萄酒工業 |
| 長野県 | 小布施ワイナリー |
| 長野県 | Kidoワイナリー |
| 大分県 | 安心院葡萄酒工房 |



第6回 日本ワイナリーアワード® 2023 開催レポート

ご後援や関係省庁の皆様をはじめ、多くの方々が会場に駆けつけ、エールをくださいました。
新型コロナウイルスによる行動制限が緩和されたため、一般のワイン愛好家を招いた有料試飲会も併設しました。



＜副賞授与＞
協賛のリーデル・ジャパン社 アンギアル社長が直々に副賞を授与くださいました。

(左) リーデル・ジャパン
ウォルフガング・アンギアル 社長
(右) 高畠ワイナリー
高橋和浩 取締役営業部長



農林水産省
平形雄策 農産局長



観光庁
中村広樹 観光地域振興部長



JFOODO
北川浩伸 執行役

＜来賓挨拶＞ ご後援の皆様より、ワイナリーへのエールのお言葉をいただきました。



株式会社HIRAKU
廣瀬俊朗 代表取締役CEO

＜特別審査員賞発表＞
廣瀬俊朗氏より特別審査員賞発表。受賞したモンガク谷ワイナリー木原オーナーに電話で直接お祝いを伝えました。



＜試飲会風景＞ 5つ星ワイナリーのワインが揃い、醸造家と直接コミュニケーションが取れることが価値であると参加者から高い評価を受けました。

第6回 日本ワイナリーアワード® 2023 開催レポート

新聞・雑誌・専門WEBメディアをはじめ、多数の取材を受けました。

日本経済新聞社／日本食糧新聞社／食品産業新聞社／醸造産業新聞社／北海道新聞／山梨日日新聞社／サンデー毎日／WANDSほか

日経MJ（2023年6月7日付）全7段企画広告





伝統をつなぎ日本ワイン発展へ

品質が高いワインを造るワイナリーを表彰する「日本ワイナリーアワード®」。全国の審査員が対象となるワイナリー319場を評価し、厳選なる審査の結果、2023年は242場が表彰された。

6月2日にハイブリッド形式で開催された表彰式では、冒頭、審査委員長の遠藤利三郎氏が壇上に上った。「ワインの消費量は拡大しており、ワイナリーの数も今年中に全国で500場を超える勢いだ。アワードで選出されたワイナリーをきっかけに、日本のワインの躍進らしきを知っていただきたい」と述べた。

傑出した品質のワインを造る、5つ星ワイナリーには全国から16場が選ばれた。各代表が壇上やリモートで表彰され、喜びの表情を見せた。受賞ワイナリーを代表して、機山洋酒工業の土屋由香里氏が挨拶。「日本ワインが高い品質を葆ち発展が期待できるのは、醸造家やワイン業界のつながり、風通しの良さが理由だ。先輩たちに育てられ教えてもらった良い伝統を守り、志ある若い方たちにつないでいきたい」と感想を語った。

また今回は特別審査員として、元ラグビー日本代表キャプテンでワイン好きの広瀬俊朗氏が参加。北海道の「モンガク谷ワイナリー」に特別審査員賞が授与され、ラグビーとワイン造りの共通点について語り合い、盛況のうちに表彰式は幕を閉じた。



5つ星に選ばれたワイナリー

北海道(2場) ・ドメヌ・タカヒコ ・山崎ワイナリー	山形県(3場) ・酒井ワイナリー ・高島ワイナリー ・タケダワイナリー
山梨県(8場) ・勝沼醸造 ・機山洋酒工業 ・Kisvinワイナリー ・サントリー 登美の丘ワイナリー ・シャトー・メルジャン ・ダイヤモンド酒庄 ・中央葡萄酒 ・丸藤葡萄酒工業	長野県(2場) ・小布施ワイナリー ・Kidoワイナリー
夫夫県(1場) ・安心院葡萄酒工房	

4つ星、3つ星、コナセズについては、公式WEBサイトをご覧ください▶

特別審査員の廣瀬俊朗氏
(HIRAKU代表取締役、元ラグビー日本代表キャプテン)が選出

北海道・余市
モンガク谷ワイナリー




——— 日本ワイナリーアワード®とは ———

消費者がワインを愉しむ際の一助となるべく、高品質な日本ワインを造るワイナリーを表彰・発信している。審査対象は、原則として設立より5年以上経過した国内ワイナリー。ワインの個別銘柄を審査対象とするのではなく、入手しやすさを重視してワイナリーそのものを審査対象としている。ワインの熟成期間も考慮し、輸入付けより5年以上とする。

「赤や白などスタイル別で品質にばらつきはないか」「収穫年に左右されず品質の安定感があるか」「コストパフォーマンスに優れているか」「複雑性、濃縮感などのバランスに優れ、高貴さを持つか」「テロワールを表現できているか」「ワインが一貫して個性を持っているか」を審査基準として評価する。

